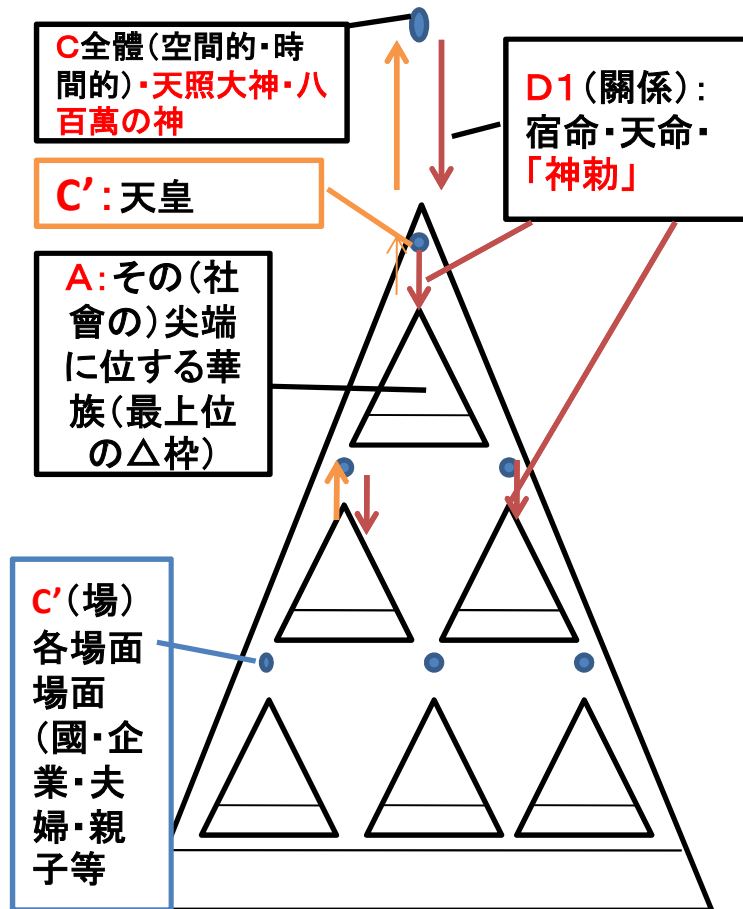


*「日本語の神といふ言葉は西洋人のそれとは異り、**絶対(C)的な唯一神を意味しはしない**。さういふ抽象性はないのだ。それはもつと具體的なものの比喩なのである。神とはそもそも最初から『神のごときもの』であり、『尋常(ヨノツネ)ならず(Cか?)すぐれたる徳(コト)のありて可畏(カシコ)き物を迦微(カミ)とは云(イフ)なり』(本居宣長)で、日本人は人間(相対)が神(C: **八百萬の神**)になることを少しもをかしいとは思つてゐないのだ」(『象徴天皇の宿命』麗評別)・・・かうした神道の性質の「神」を、恒存は以下のC的概念として捉へ右項で、「完成せる統一體としての人格」論を展開してゐる様だ。



「完成せる統一體としての人格」論で考察する恒存の天皇観。」」内が恒存文。()内は吉野注。

*「ぼくにとつて問題なのはエゴイズム(A: 相対)の處理なのです。個人のエゴイズム(A: 相対)といふのは、ときには國家(C': 上位的相対)の名において押さへなければならない。それなら國家(C': 上位的相対)のエゴイズム(A)といふのは何によつて押さへるかといふと、この原理は、天皇制(非絶対C=A相対)によつては出てこないだらう。日本の國家(C')のエゴイズム(A)を押さへるといふことは、天皇制(C' = 非絶対C=A相対)からは出てこない。ぼくは天皇制を否定するんじやなくて、天皇制(C' = 非絶対C=A相対)ともう一つ併存する何か(相対を超えたるものの何か=C)がなくちやいけな。絶対天皇制(相対Aの絶対C化)といふのは、どうもまづい(中略)西洋の旧約聖書の場合、もちろんセム族といふ一民族の所産で、その限界はあるけれども、とにかく世界創造、人間創造といふ普遍性(C)を持たせてゐる。ところが、日本の神話といふのは、日本列島(A: 相対)、日本人の創造(A: 相対)しか説明できない(普遍性Cがない)。だからキリスト教につけといふ意味じゃないけれど、やつぱりわれわれは、もう少し二重に生きる道(即ち、「完成せる統一體としての人格」論)を考へなくちやいけな。[貴族(△枠)の頂點天皇C'。それを超えたるものとして八百萬の神Cの設定(二元論)といふ事か?しかし、八百萬の神はそもそも日本の「一元論」を支へてゐる迦微(カミ)のであつて、その「一元論」を統率する倫理観が「拂ひ淨めて和に達する」なのでは?この矛盾的關係を探究せよ!]⇒迦微(カミ)のC(全體)化か? 天皇制(C' = 非絶対C=A相対)の必要と、それを超える——優位といふ意味ぢやなくて——他の原理を立てなければならぬんだけど、自由主義とか民主主義(近代化概念=相対界)といふのではだめなんだ。(中略)。

『教皇無謬説』といふのがあるでせう、しかし、教皇(C' = 非絶対C=A相対)は事實あやまちを犯してきましたよ。でも、それは地上教會(非絶対C=A相対)のあやまちだよ。たとへば、ジャンヌ・ダルクを魔女扱いにした。その地上教會(非絶対C=A相対)のあやまちといふのは、後世の同じ地上教會(非絶対C=A相対)がなほすことができる。あるいは地上教會(非絶対C=A相対)は永遠に間違ひしつばなしになるかもしれない。でも、それは天上教會(C)によつて裁かれる、といふことがある。

しかし、天皇が天上教會(C)なしの地上教會(非絶対C=A相対)の最高權威(即ち天上教會C代はり)とすると、ボロ(A: 相対的行爲)を出すわけにはいかない。天上教會(C)のごとく振舞はなければいけない。そこに非常にむずかしさがあるし、ちよつとでもボロを見せれば、大正天皇が勅語をまるめてのぞいた(ボロA的行爲を見せた)といふと、もういけないんだ(絶対Cの相対A的墮落化)。かういふことをやつたら大變なことになつちやふ(天皇無謬Cの崩壊)。天皇(非絶対C=A相対)が絶対にボロ(A: 相対的行爲)を出さずに済むかといふ問題ですね(A相対が相対A的行爲を犯さずに済むか)」「(『文武兩道と死の哲學』: 對談・三島由紀夫。昭和四十二年)(P119『滅びゆく日本へ』福田恒存の言葉)。

*「専制君主制と立憲君主制とを問はず、かつて貴族階級に擁せられてゐない君主といふものはなかつた。天皇の、あるいは一般に君主の、個人的人格は貴族階級によつて形づくられる。天皇は個人になり、個人として生きる場所を、いはば私たちにとつての社會(A)を、華族との交際のうちに見出す。あるいは私たちの社會はその先端に位する華族(最上位の△枠)において天皇(C')と接触し、さうすることによつて、天皇(C')を國民生活(A)のうちに取入れる。それが正常な在り方といふものであらう」(『象徴天皇の宿命』麗評別)(P122『滅びゆく日本へ』福田恒存の言葉)。